

燕市
1人1台端末の利活用に係る計画

令和7年3月1日

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

情報を正しく読み取り（INPUT）、考え（THINK）、相手に伝える（OUTPUT）力を育成し、知・徳・体のバランスの取れた、心豊かで生きる力がみなぎる子どもを目指す。

2. GIGA第1期の総括

当市の市立小・中学校では、国のGIGAスクール構想を受け、学習系ネットワーク・無線LAN環境及び児童生徒1人1台端末の整備を進め、令和2年2月までに完了した。1人1台端末の日常的な活用が図られるようになってきているが、ネットワーク環境が不十分であり児童生徒の端末活用に支障をきたしていることが課題である。今後は、児童生徒の使用状況の変化に合わせてICT環境の更なる整備を進めることにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、資質・能力を確実に伸ばしていくことができるようにしていく必要がある。

当市の教員が授業中にICTを活用して指導する能力は全国平均並みであるが、学校間や教員間で意識やスキルに差が見られる。このことから、教員のICT活用指導力の更なる向上も必要である。また、校務の更なるデジタル化を進めることにより、業務の効率化や現場の負担軽減を図り、教員の力を最大限に引き出すことも必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

前項1「1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」の実現のため、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していく。
なお、整備・更新した端末は、以下のような利活用を行う。

項目	K P I	現状値⇒目標値	方策
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	全国 ：73.0% (R4) ⇒100% (R6) 燕市 ：71.7% (R4) ⇒100% (R6)	研修のニーズの把握と実施
	情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置	全国 ：5.7校/人 (R3) ⇒4校/人 (R7) 燕市 ：2.9校/人 (R3) ⇒2.5校/人 (R7)	ICT支援員配置のための予算確保
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	全国 ：小90.6% (R5) ⇒100% (R6) 中86.5% (R5) ⇒100% (R6) 燕市 ：小80% (R5) ⇒100% (R6) 中100% (R5) ⇒100% (R6)	端末活用事例の共有
	デジタル教科書を実践的に活用している学校	全国 ：40.5% (R4) ⇒100% (R10) 燕市 ：65% (R5) ⇒100% (R10)	デジタル教科書の活用事例の共有
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 ：小44.9% (R5) ⇒80% (R8) 中36.1% (R5) ⇒80% (R8) 燕市 ：小33.3% (R5) ⇒80% (R8) 中40% (R5) ⇒80% (R8)	各校の端末稼働状況の確認、端末の活用状況を各校へフィードバック
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する 場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 ：小 46.0% (R5) ⇒80% (R8) 中 44.4% (R5) ⇒80% (R8) 燕市 ：小20% (R5) ⇒80% (R8) 中60% (R5) ⇒80% (R8)	
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 ：小 53.3% (R5) ⇒80% (R8) 中 49.4% (R5) ⇒80% (R8) 燕市 ：小40% (R5) ⇒80% (R8) 中40% (R5) ⇒80% (R8)	
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校	全国 ：今後把握⇒100% (R8) 燕市 ：今後把握⇒100% (R8)	第1期整備端末の有効活用及び第2期整備予備機の活用
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校	全国 ：今後把握⇒100% (R8) 燕市 ：今後把握⇒100% (R8)	
	障害のある児童生徒や病氣療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校	全国 ：今後把握⇒100% (R8) 燕市 ：今後把握⇒100% (R8)	